

神奈川県山梨教会連合会より

かりん

「横須賀で金光教の花を咲かす」

木本オリビア先生は、カナダ・トロント生まれの26歳。2015年に来日し、金光教学院と国際センターで研修を受けました。国際センターで出会った木本雅史先生と後に交際が始まり、2017年から横須賀教会での御用が始まり、昨年結婚されました。ご家族や横須賀教会の信者さんに温かく迎えられる、幸せに御用されています。

○どうやって金光教と出会いましたか。
オリビア先生(以下…オ)…2011年のある日、いつもは乗らないバスに乗って家に帰る時、神社のような屋根の建物に「Koko Church」という看板があるのを見かけ、神社なのに教会と不思議に思い、インターネットで検索したのが始まりです。そしてトロント教会に参拝し、先生に温かく迎えられる、お話を聞いて感動し、すぐに信心するようになったのです。

○金光教のどんなところに魅力を感じたのですか。
オ…たくさんあります。たとえば、金光教はとても開かれています。人種や国籍はもちろんです、宗教的な背景すら問わずに受け入れます。多くの宗教は入信する前に、以前

の宗教を離れることを厳しく求めますが、金光教はおおらかに受け入れます。また、「あいよかけよ」も素晴らしい考え方です。西洋では神様は超越した存在で、神と人とは一方的な関係です。しかし金光教では、神様と人間が近くにいて、同じ高さでつながり合い、働き合えるのです。他にもたくさん魅力的なことがあります。

○入信から短期間で教師になれましたが、よ

川でスベって山でコロんで…とってきました

Interview

第50回 横須賀教会 木本オリビア先生



く決心しましたね。

オ…人を助けることや信心を求めることは、教師になってもならなくても同じように真剣でありたいと思っていました。教師になるとしても、もっと年を取って信心を理解してからと思っていたのですが、突然教師になるための研修を受けないかと勧められ、思わず「イエス！」とお受けしたのです。

○雅史先生と一緒に、横須賀中央駅前で街頭取次をしておられるそうですね。

オ…はい。雅史先生は週3日、私は1、2日行っています。英語話者とお話をするので、あまり多くはありませんが、話をしたいという方達があります。中には、とても深刻な悩みを抱えた人もあります。教会の信者さんたちは幸せのおかげを受けておられますが、一步教会を出ると、本当に深刻な難儀があふれていることを実感します。

○街頭取次の他に、何か布教の取り組みをされていますか。

オ…インターネットを使って、英語で金光教の情報を発信しています。ツイッター、フェイスブック、インスタグラムや複数のブログを使っています。Eメールで連絡してくる人があり、継続的にメールのやりとりをしている人も10人ほどあります。アメリカ人が多く、アメリカの教会を紹介したこともあります。お取次は顔を合わせてするのが一番ですが、それができない人のために取り組んでいます。

○最後に、連合会の仲間に伝えたいことを聞かせてください。

オ…信心を現すためには、自分自身を大切にしたい、他の人のことを大切にしたいことが元だと思っています。そうすることで自分が幸せになり、金光教の花を咲かすことができ、その魅力に人が寄ってくると思います。どうぞよろしくお願いします。(山田)

「輔教懇談会」が行われました

3月16日(土)に、小田原教会を会場に連合会の輔教懇談会が開催されました。

当日は今にも雨が降りそうな天気でしたがおかげをいただき、12名の輔教が参加、雨には会わずに散会しました。

13時30分に小田原教会長宮川先生のご祈念に始まり、神奈川教会吉田章一郎氏と生麦教会高橋正一氏が発題され、その後、種々懇談後16時20分に終了いたしました。

吉田氏は『教規にみる輔教の役割』というテーマで、教規に規程されている教師・信徒・輔教の内容について説明を行った後、輔教の役割を、「進んで教会活動を担い、教団活動に参画することであり、そこにこの制度が作られた願いが表れている」と話されました。更に、親の転勤に伴い、全国各地様々な教会へ参拝したご自身の信仰歴と少年少女、青年、信徒会とそれぞれの年代の団体での活動など、今日までの活動について話をされました。教団活動への参画という点では、教団会議員そして教務参与と12年に亘り関わってこられたとのことでした。

高橋氏は『信心を伝える生麦教会での輔教の経験』というテーマで、今日までの信仰の歩みと生麦教会での御用について話をされました。信徒総代でもあり、長い間、

教会長先生との信頼関係を築きあげ、信者さんが言いにくいことを先生に伝え、信者と先生の橋渡しを行う教会の便利屋になりきるといふ思いを強く語られました。また地域の活動を通して一般の方々の取次、お手引もしておられます。

輔教を拝命されて2年数か月とのことですが、それ以前から大祭時のお結界奉仕や新しく入られた信徒のお世話、また、信徒目線での祭典後のお話など、その積極的な活動に特に頭が下がりました。

その後、輔教活動内容のアンケート例が紹介され、試験的に各自記入を行い、意見交換しました。自分自身の教会活動などを振り返り、また、他の輔教の方の活動を知る良い機会となりました。

最後に参加者全員の近況報告、感想があり、「最初輔教を受けた時には、勉強会がなかったが、この輔教懇談会が行われていろいろ伺えることがあるので良かったと思う」「輔教になると、人によりいろいろな見方があることや、どんなことをしているかを知る機会にもなります。また、何をしたら良いか分からない人に声かけすることが出来ることもあります」などの声が聞かれました。そして、宮川先生の総評をいただき散会しました。

(辻秀志)



○かりんの輪

「母の信心を受け継いで」

甲府教会 岡本和子

昨年10月、ご本部の金光大神大祭に参拝しました。お結界で教会長がお取次を頂き、その後信徒数名もお取次を頂きました。97歳の母もお結界に進み、「来年もぜひ参拝出来すように」とお願いしました。金光清治先生がにつこり笑顔で頷かれたのが忘れられません。

今年98歳になった母は、長男家族と同じ敷地の別棟で、一人暮らしをしています。入浴など身の回りのことや掃除洗濯などすべて自分でやっています。全部自分の歯で、好き嫌いなく何でも頂き、目も耳も不自由なく、例えば携帯電話で自由に話が出来ますし、私たちの衣類のほころびや裾上げもやってくれ、私の娘のウエディングドレスを作ってくれたほです。

母は80歳まで現役の看護師として病院に勤めていましたが、助産婦の資格も持っています。私も、私の娘達も皆看護師になりましたが、母は退職後、ひ孫達の子守をし、ひ孫は医学部に進みました。皆母の影響を受けたのだろうと思います。よい友人に恵まれて、ゲートボールの審判員の資格

「女性のつどい」が行われました

信徒部主催の女性のつどいが、今年相模原教会を会場に、7月10日13時半から開催された。

今回のテーマは「無意識な偏見への気づき」。人は自分で気づかないうちに、他人を差別したり傷つけたりしているのではないかと指摘を受け、反省を促す内容。相模原教会の3人の信徒の発表から始まった。

山田初子さんは、友人と立ち話をしている時、道路上にある、黄色の案内表示の上に乗って、注意を受けた。視覚障害のある方には、命綱とも言える表示で、それに気がつかなかつた自らを反省し、それ以後さまざまな障害者に関心を持つようになった経緯を話された。

続いて麻場寿子さんはLGBTについて発表した。同性愛者、心と体の性が一致しないなど、性的少数者として一言で括られてしまっているが、実は左利きと同じ程度の割合でそういう方々がいて、日常生活、進路、仕事、結婚など人生のあらゆる面で大変な苦痛と辛さを抱えて生きておられる現実を話された。

最後に藤井淳子さんは、重症心身障碍児(者)のお世話をしている看護師としての実体験をお話された。ほぼ寝たきりで食事も排泄も自力で出来ず、知的障害もある、となると、意思表示など出来ないだろうと

思われがちだが、実は瞬きだったり、僅かに小指を動かすことで、喜びを表現してくれることがあり、意思疎通が図られることに感動することも多いのだとお話しされた。

普通、私たちは乗り物や道で、視覚障碍者に会うことくらいしか経験していないし、新聞テレビなど媒体を通してしか、LGBTのこと、重症障碍者のことも知り得ない。関心はなくてはならないけれど、どこか遠い世界のことだと思っ、毎日生活している。同じ信徒の方々が、具体的話題を提供して下さったことで、どのお話も非常に身近に感じることが出来、よそ事とは思えなくなつた。そのためか、あとの懇談は非常に活発で、有意義な発言が相次ぎ、さらに思索を深めることが出来たのではないかと思う。

安達先生の「私たちが住むこの社会を、偏見や思い込みで見ることのないように、信心を土台にして、支え合い認め合う調和のとれた社会にしていきたい」という言葉に納得した。すべては知ることから、第一歩は知ることから始まると気づかせて頂いた集会だった。相模原教会の皆様、お世話になりました。当日の参加者は9教会から21名でした。(大塚東子)



を取り、台湾やハワイの大会に参加しました。その折、ホノルル教会に参拝、歓迎して頂き、広い立派なお広前に感激して帰ってきました。

88歳の時、転倒して右大腿部を骨折、手術を受けた時は、このまま寝たきりになるのではと心配しましたが、毎年ご本部参拝を楽しみにしている母は、「何としても来年もお参りするのだ」という強い願いを持って、リハビリに励みました。見事、お礼の参拝が出来た時は、我が母ながら「あつぱれ」と言う他ないと思えました。92歳の折には肝臓に癌が見つかりましたが、それも完治し、今は何も薬を服用していません。

こんなふうにおかげを頂きっぱなしの母ですが、信心は母方の祖父母から始まり、七人兄妹の末妹として生まれ、子供の頃は皆「おんこうさん」と言っ、痛いところには御神米を貼つたり、御神酒を吹いてもらつたりして育つたそうです。私は母から受け継いだ信心を続けておりますが、従姉妹達は金光教のことを殆ど何も知らないようです。私一人が辛うじて祖父母の信心を受け継ぎ、三代目になるわけですが、どうしたら信心の継承が出来るのか、せめて私の娘や孫達には信心を伝えたい、最近真剣に考え、祈っているとこです。

令和元年 神奈川山梨教会連合会 生神金光大神大祭日程

教会名	日	程
甲府教会	10月20日(日)	13時30分
南甲府教会	10月21日(月)	11時
鎌倉教会	10月27日(日)	13時30分
登戸教会	10月27日(日)	13時
横浜西教会	10月27日(日)	13時30分
大明教会	10月27日(日)	13時30分
子安教会	11月2日(土)	13時30分
横須賀教会	11月3日(祝)	13時30分
生麦教会	11月3日(祝)	13時
丸子教会	11月3日(祝)	11時
相模原教会	11月3日(祝)	14時
武蔵小杉教会	11月10日(日)	11時
鶴見教会	11月11日(月)	13時
野毛教会	11月16日(土)	13時30分
平塚教会	11月17日(日)	11時
小田原教会	11月23日(祝)	14時
藤沢教会	11月28日(木)	11時
神奈川教会	11月30日(土)	11時30分

みんなのつどい「さくらんぼ狩り」報告

去る6月2日(日)、みんなのつどいを、南アルプス市伊藤農園で開催し、さくらんぼ狩りを楽しみました。参加者は神奈川県から20名、山梨県から20名でした。神奈川県組は午前8時、神奈川教会に集合してバスで出発。開会のご祈念で道中の安全を願い、続いて連合会長山田信二先生が挨拶されました。

バスの中では、横浜西教会の山田朋歩さんが、自己紹介やゲーム等で雰囲気盛り上げてくれました。甲府昭和ICを出てしばらくして伊藤農園に到着し、甲府教会、大明教会の皆さん20名と合流をしました。農園の伊藤さん(大明教会信徒)より説明を受け、お待ちかねのさくらんぼ狩りとなりました。さわやかな甘みが口の中に広がるジュシーなさくらんぼの食べ放題を堪能して、参加者は皆大満足でした。天地の働きに御礼を申し、お土産を買い、記念写真を撮り、大明教会へ移動しました。

大明教会では、お届け、ご祈念の後、昼食となり、大明教会、甲府教会のみなさんのおもてなしを美味しくいただきました。13時過ぎに出発となり、山梨県の皆さんの見送りを受けて、神奈川県組は帰路につきました。途中、渋滞に遭いましたが、予定より早く、16時30分には横浜駅に無事到着、解散となりました。(横山光雄)

〈な・が・れ〉

「神様の目と自分の目。」

妻のおかげでできる我が信心
登戸教会 和田我八十

25歳の時、脳出血で倒れ生死を彷徨うが、おかげを頂き生かされた。左片側麻痺の後遺症は残ったが、退院後、母とお礼参りに行ったことで、再び教会にお参りし始める。神様や先生の言葉をメモし質問した。今の自分でも誰かのお役に立てたらと思えるようになった。

数年後、在宅勤務で復職し、限られた範囲は一人杖歩行で外出できるまでになった。35歳で結婚、翌年娘を授かり、現在39歳。妻は、信心とは無縁だったが、大きなお祭には僕と母と参拝してくれ、二歳になった娘も、二緒バチ、バチ行く〜と喜んでる。

とある大祭中、娘はノビノビ過こしていたので迷惑かけたのではと、お祭後先生に尋ねると、「子供は、まだ話せないですよ。子供なりにいろいろ神様とお取次しているのだから大丈夫だよ。」とありがたい言葉を頂いた。神様から見たら、いつも違った視点があるのだと気付かせてくれる。

僕は障害者になったけど、信心させて頂き、日頃気付きにくい神様の視点を知れ、多くのご縁やおかけに支えられ、常々前向きでいられる。結婚後も家族と一緒に参拝でき幸せだ。ありがとう。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 山田 信 二

〒245-0017 横浜市泉区下飯田町926・23
金光教横浜西教会内